

2025 年 1 月
No.475 号



旧年中は大変お世話になりました。

新しい年が素晴らしい一年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。

本年もよろしくお願い致します。

2025 年を迎えて

森 直樹（代表取締役社長）



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年 1 月に立てました課題について振り返ってみると、

1. 評価制度の策定・・・20% 他社の状況、専門家や評価制度サービス会社の話を聞く等、情報収集に留まる、最適な形を引き続き探っていく。
 2. 人材育成・・・50% OB 牧野さんからの若手研修で幅広い知識を講義いただいた。全社的には研修は実行せず
 3. 実務の引き渡し・・・80% 私まで直接来る問い合わせに対して、可能な限り事務側で対処してもらうようにする流れが出来てきた。今後残りの案件で渡せていない部分を都度教えていく。
- 以上の 3 つでした。それぞれについての達成度合いはご覧の通りですが、まだまだ目標に対しての意識が甘かったと反省します。またこれらは完了した、あるいは優先順位を下げてても良いと言える状況になるまで 2025 年も継続して取り組んで参ります。目標達成のためには、より実行しやすい形になるまで行動を細分化し、着実に進めていくことが必要です。仕事の早さは着手するのが早いのか遅いかで決まるとも言います、日々の業務も、大きなプロジェクトも細分化することで進んでいきます、26 年には目標も刷新出来るよう目の前の目標に邁進していきます。





定期健康診断の報告書が届く。毎回ながらドキドキしながら診断結果を見るのだが、沈黙の肝臓君が、最悪の状態になっていることに驚く、ストレスのせいにはしたくないが、無制限で、毎日飲酒をしていた。もともと数値は、良くはなかったのだが、結果は残念ながら基準値を大幅に超えてしまう。AST：6 倍 ALT：8 倍 rGT：4 倍 一年前は、まだ全てが基準値の 3 倍以内だったのだが、主治医からは、検査結果を見て、検診日には、必ず忠告をいただいていたのだが、やはり飲酒はやめられなく、過ぎてしまいました。休肝日を作らなければならない休日でも昼から飲んでしまい、悪いこととは解っていたのだが飲んでしまっていた。古い話にはなるが、入社当時は、コップ一杯のビールも飲めなかったが、俺の酒が飲めないのかと諸先輩方に、鍛えられて良かったのか悪かったのか、こんなことになるなら鍛える必要は、無かったのかなと思ってしまう。自分の身体は自分しか守れないからと、強く思うのでした。お酒にしても、たばこにしても、快楽を味わえば、なにか仕返しが残っていますね。現在は、出来るだけ控えるようにはしていますが、意志が弱くて辞めることは出来ません。最近、忘年会も少なくなっていますが、飲むときには、ハイボールを出来るだけ薄くして炭酸を注ぎ足して飲んでいます。ノンアルコールビールにも挑戦をしてみました、アサヒゼロ 試してみたが、やはり無理。テレビCMでは、通常のビールと変わらないとアピールしていたので、美味しいのを期待していたが、残念ながら、美味しくありませんでした。12 月初旬の血液検査結果が 1 月には、見る事が出来ます。良い年になりますように。

ヒット本 長くなる題名

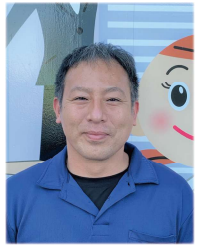
河嶋 桂子（東京オフィス）



ベストセラー本の書名が長くなっている。確かに本屋さんで棚を見ると、書名が長い本が多いですね。1960 年代に比べると 2 倍近く長くなっているそうです。売れ筋自体も、単語中心の簡潔な書名の文芸書から、文章かと見間違えるほどの説明調の実用書やビジネス書へと変化が見られるようです。近年は大量のウェブ情報の中で埋没しないように長いタイトルをつけた SNS やブログ発の書籍も多いと思います。文芸書がベストセラーに目立つ 1940 年～60 年代は平均 5 文字前後でしたが、財テクやゲーム攻略法などのハウツー本が顔を出してくる 70～80 年代に延び始め、短期の変動はあるものの、デジタル化が進む 2000 年代に入って更に伸長。昨年の大ヒットでは、「頭のいい人が話す前に考えていること」とか「よけいなひと言を好かれるセリフに変える 言いかえ図鑑」など、とても長いですね。書籍の編集長によれば、特にビジネス書では著者の知名度より本のコンセプトで売られるようになったらしい。また紙の書籍では表紙のイラストなどで作品の世界観を表現することが出来ましたが、投稿サイトや電子書籍では見出しだけが読み手の判断材料になるのも、この傾向を後押ししている感じです。また書名に使われる言葉も時代を映して面白。1950 年代は文学や文集が多かった感じですが、70～80 年代はミステリー小説やプロ野球関係が増え、2000 年代以降は「人生」「脳」「お金」などの個人の生き方に関わる言葉が増えてくるようです。SNS によって、情報を得るための時間と労力をかけなくなってきて、タイトルが長い方が、人は情報がたくさん入っていると錯覚するという説もあって興味深いですが、ネットより落ち着いた言論空間も、情報に速さと手軽さばかりを求める志向と無縁で良いなと思う今日この頃です。

優しさ

松井 栄志（配送部）



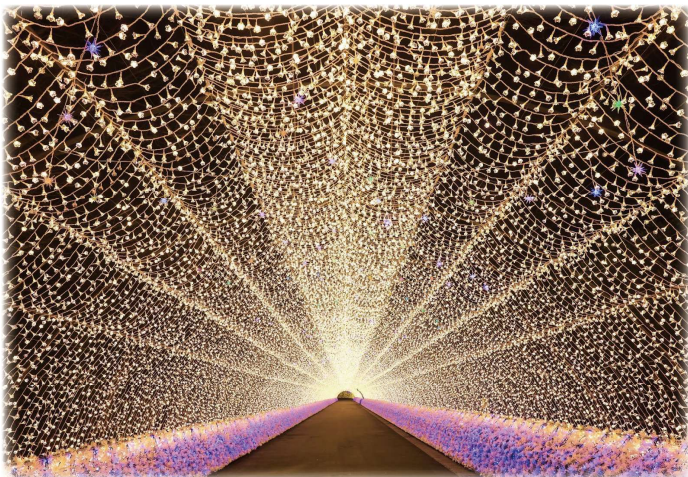
少し前ですが、ワタシは身体にダブルパンチをいただきました。お恥ずかしい。さらに、リハビリの先生からお勧めのものを聞いてしまい、「いいマシンがあるみたいよ。どうでしょ?」と家族に相談…はい、大ブーイング。お恥ずかしい。こんなんですが、いいこともあり、身体の調子が良くない初めの1週間くらいは、子供達が優しくて優しくて。お手伝いもよくしてくれますし、お願いごと嫌がらずに聞いてくれます。とてもハッピーです。そんなある日の休日に、子供達がママとお出かけをしてくると言い、お買い物もしてくるからパパは家に居ていいよと。あは!ラッキー!もう心の中で大はしゃぎです。その日はとてもゆっくりできました。サンキューです。夕方に「ただいまー」と帰って来ると、「パパにお菓子買ってきたよー」と。息子は「はい、チョコバット(3本)」。娘は「はい、ドーナツ(ヤングドーナツ1つ)」と出してきました。君たち、最高です!僕の好きなお菓子をよく知っておられます。心がほっこり、顔がにっこりです。そんな束の間、なぜかせびられます。2人にお金をせびられます。どゆこと??「ええ!?!」「マジ!?!」「何で!?!」とか言いながらわちゃわちゃ…。最後にはしぶしぶお財布から100円玉を出すと、「えー!!」と大きな声で言われ、なぜかドキドキ。そしてすぐに息子が「500円!」と、またまた大きな声で手を出してきて、さらにドキドキ。娘も真似をしたのか「500円!」と言ってきました。あら、かわいい。これがぼったくりです。ぼったくりホームです。コワいですね～。父親を相手にぼったくるんですね～。やるね!それでも、お気持ちはいただきましたので、少なくとも500円玉をお出ししましたら、2人ともきゅきゅして、サーっと去って行けました。おーい…。それから時間が過ぎてゆくたびに、優しさも薄れていくんですね…。よいよ。

なばなの里

西垣 浩司（製造部）



なばなの里のイルミネーションは有名で昔子供が小さいときに行ったきりで、今回は妻と二人で出かけてみました。なばなの里イルミネーションは毎年注目を集める光の祭典。ナガシマリゾートなばなの里イルミネーションを訪れるツアーも紹介されています。なばなの里イルミネーションを一躍有名にした光のトンネルは全長約200m。なばなの里ならではの可愛い花びらを模り、暖かな灯りを基調としたLED電球で光のトンネルは作られています。全国のイルミネーションの中でも水上にあるイルミネーションは稀で、大自然に抱かれたこの長島にある木曾三川（木曾川・揖斐川・長良川）の流れを表現しています。最先端のコンピューター制御技術を駆使し、さらに美しい音色のBGMに合わせた約640億色の演出が可能な最新LEDで光の大河の"木曾三川"、様々な変化に富んだ"大自然の美しさ"をご覧ください。ツインツリーのチャペル前には2本のシンボルツリーがあります。LED電球を丁寧に枝先まで装飾し、ボリューム感のある華やかなイルミネーションツリーで、大人の色使いのパステルブルーに見立てた優雅なツリーは、人気の写真スポットです。全て電球を使用して表現することにこだわっているなばなの里のイルミネーションは、圧巻の規模と色鮮やかな色彩できらめくイルミネーションを見て楽しめました。



第41回家族忘年会フォトギャラリー

息子達からのサプライズプレゼント

大脇 奈緒美（森松産業）

先月の私の誕生日に嬉しい出来事がありました。11歳の次男は手紙をくれました。そこには、「ママおたんじょう日おめでとう!僕のたくさんのことを支えてくれてとても助かっています。学校のことや、家のこと、野球のことも支えてくれているママのことが大好きです!僕はこの家族でとても良かったです。ママ、生んでくれてありがとう。これからも僕の自慢のママでいてください!」と書いてありました。母として“当たり前”のことをしていただけなのに、こんな風に思っ
て感謝を言葉にしてくれたことが嬉しく感動しました。そして12歳の長男は、友達とショッピングモールに行くときに出かけた帰りに「ママ、誕生日おめでとう!」の言葉と一

緒に UNIQLO のダウンコートをプレゼントしてくれました。私の好みを熟知しているのか?!と思うくらい私好みの素敵なプレゼントでした。たくさんお小遣いを使わせてしまって申し訳ない気持ちにもなりましたが、息子達の気持ちが本当に嬉しく、幸せな誕生日になりました。思春期を迎えつつある息子達にイライラしてしまうときもありますが、母親想いの優しい自慢の息子達です。

